

コラム

みやちゃんと ご一緒体験記

Vol.40

【薬育のススメ】

猛暑が終わった(?)と喜んでおりましたら、9月は台風シーズンだということを忘れておりました。夏と秋の気配がせめぎあう中、秋のお彼岸前にご先祖様の眠るお墓を掃除しておこうと思い、つかの間の晴れに期待し急ぎ都内の墓地にでかけました。気持ちよく晴れていたので大丈夫だろうと思ったものの、俄かに雲行きが怪しくなり「ヤバイ!」と思った時はすでに遅く、たちまち土砂降り。お墓のある場所から休憩所まで離れているためびしょ濡れとなってしまいました。にわか雨はすぐにおさまるだろうという期待もむなしく、時間だけが過ぎ、仕方なく十分な手入れができないままヘトヘトになって帰宅した次第です。

この日は敬老の日だったため、テレビではずっと台風情報、敬老の日情報、そして英国女王の国葬中継を放送していました。

今回の台風もいつものように「過去に例のない台風」という形容詞がつく警戒ぶり。暑さも台風や地震の規模も毎年スケールアップしているようで、言葉の方がおいつかないのではないのでしょうか。事実、九州の友人は「すさまじい強風で怖かった～」と話しており、近年特にめだってきている感のある強風や竜巻現象にどう対応したらいいか。安全とおもう家の中にも、破壊力のある風およびそれによって運ばれたモノがとんできたら……と思うと怖くてたまりません。

テレビでは、現時点での日本一の長寿高齢者が116歳の女性だと告げていました。英国女王は96年間の人生でした。人生百年といわれる現在ですが、近年の自然の驚異をみせつけられると、なかなか収束しないコロナとの闘いもあり、長生きしたい気持ちがあっても生命を脅かすリスクに立ち向かい身をまもりサバイバルできるかどうか、不安になってしまいます。

そんな弱気になってしまったのは、先週末、薬にかかわる事件が国内でおきショックをうけたことも関係しています……。

ひとつは、担任を外されて悔しかったという短絡的な理由で、小学校の給食のカレーに若い女性教師が漂白剤を混入した事件。幸いにも変な匂いに気が付いた生徒が不審に思ったため死傷者を出さずにすみました。二件目は、大手製薬会社社員の夫がメタノールを使って妻を殺害したという事件。

同日、この二件の報道がなされ、私達はなんとリスクだらけの世界に生きているのだらうと恐ろしくなっていました。二人の容疑者はともに“評判のいい人”だったといえますから、コロナや自然の猛威よりも怖いのは人間と言わざるをえません。

嘆いてばかりはいられないので、危険だらけの世の中をわたっていくための防災知識などあらゆる知恵をつけないければならないのは言うまでもありません。

カレーから異臭がすると気づいた生徒が事件を未然に防いだように、私たちは薬に対する知識をつける必要があります、そのためには幅広く薬教育をうける必要があるように思います。

薬剤師・宮原富士子さんこと“みやちゃん”は、自身が理事長をつとめるHAPのオンライン講座「セルフメディケーション&健サポ支援塾」で、「暮らしの中の生活薬学 ～より健やかに、より安全に～ 薬局からの提案：」を展開しています。テーマは毎月かわり、これまで日焼け止め、防虫剤などに触れ、次回以降は衣類用洗剤やジャンパー・ボディーソープを扱います。

★HAP

[「セルフメディケーション&健サポ支援塾」](#)

[「暮らしの中の生活薬学 ～より健やかに、より安全に～薬局からの提案：衣類用洗剤、討議」](#)

薬の飲み合わせは十分気を付けなければなりませんから、自身が飲む薬情報については医師や薬剤師まかせにせず自分でもしっかり調べたいものです。

私たちの生活に目を向けると、閉ざされた空間でお風呂掃除をしていた主婦（製品情報をよくよまずに使用していた！）が、掃除中に具合が悪くなり救急車で運ばれたり、デート中に相手から飲み物にリスクな薬を混入されて性暴力の被害にあったり……。しらずに危険なキノコを食べてしまいアナフィラキシーショック状態になった人もいます。素人でもある程度、薬の知識、匂い、香りといったものに敏感な感性を身につけていれば生命を守ることはできるはずですよ。

生きることは闘い、そして学びの連続です！ 勉学の秋、私のいち推しは、薬育のススメです。